

製品情報	
販売名	PanoSCOPE(パノスコープ)
一般的名称	歯科用骨形態評価プログラム
医療機器製造販売承認番号	30600BZX00098000

推奨環境		
PC	OS	Windows10(64ビット) / Windows11(64ビット)
	HDD(空き容量)	500MB以上(ただし、別途画像データ領域が必要)
	メモリ	4GB以上
	CPU	第4世代 Intel Core i7以降
ディスプレイ	解像度	1,920×1,080ピクセル以上
	カラー表示	True Color(32bit)

お問い合わせ  [製品ページ](#) 

医科歯科連携 参考文献

- *1 Yoshimura N, Iidaka T, Horii C, Muraki S, Oka H, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T, Tanaka S: Trends in osteoporosis prevalence over a 10 year period in Japan: The ROADstudy 2005-2015. J Bone Miner Metab 40(5): 829-838, 2022
- *2 Sakamoto K, Nakamura T, Hagino H, Endo N, Mori S, Muto Y, Harada A, Nakano T, Yamamoto S, Kushida K, Tomita K, Yoshimura M, Yamamoto H: Report on the Japanese Orthopaedic Association's 3 year project observing hip fractures at fixed point hospitals. J Or thop Sci. 2006;11(2):127-34.
- *3 厚生労働省「2022(令和4)年 国民生活基礎調査」表 17 現在の要介護度別にみた介護が必要となった主な原因(上位3位)
- *4 荻野 浩、近藤 暁子、大塚 英樹、骨粗鬆症の医療経済 骨粗鬆症における各種骨折の医療経済. The BOBE. 2009; 23:47-51.
- *5 原田 敦、松井 康孝、竹村 真里枝、伊藤 全哉、若尾 典充、太田 壽城、骨粗鬆症の医療経済 疫学、費用と介入別費用・効用分析. 日本老年医学会雑誌. 2005; 42(6):596608.
- *6 山内広世、西川 憲、骨粗鬆症検診-現状と課題 住民を対象とした骨粗鬆症検診の現状-わが国における実態. 2008; 7(4):21-24.
- *7 厚生労働省「第3回NDBオープンデータ」厚生労働省「第4回NDBオープンデータ」厚生労働省「第5回NDBオープンデータ」厚生労働省「第6回NDBオープンデータ」厚生労働省「第7回NDBオープンデータ」厚生労働省「第8回NDBオープンデータ」
- *8 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2006年版
- *9 平成30年国民生活基礎調査(平成28年)の結果からグラフでみる世帯の状況
- *10 薬剤関連顎骨壊死の病態と管理: 顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー 2023

<本製品及びパンフレットについて>

- ◎製品の仕様は改良等のため予告なく変更することがあります。
- ◎本パンフレットに掲載している画像は、イメージです。
- ◎詳細につきましては、担当営業までお問い合わせください。

メディア株式会社 医科歯科連携推進室 TEL:03-5684-2511(代) 東京都文京区本郷3-26-6 NREG本郷三丁目ビル7F www.media-inc.co.jp

本社	〒113-0033	東京都文京区本郷3-26-6 NREG 本郷三丁目ビル 8F	TEL.03-5684-2510(代)	FAX.03-5684-2516
東京支店	〒113-0033	東京都文京区本郷3-26-6 NREG 本郷三丁目ビル 7F	TEL.03-5684-2511(代)	FAX.03-5684-2514
名古屋支店	〒460-0003	愛知県名古屋市中区錦2-13-30 名古屋伏見ビル 3F	TEL.052-218-3290(代)	FAX.052-218-3291
大阪支店	〒537-0025	大阪府大阪市東成区中道1-10-26 サクラ森ノ宮ビル 5F	TEL.06-6977-9611(代)	FAX.06-6977-9615
広島支店	〒732-0057	広島県広島市東区二葉の里3-5-7 GRANODE 広島 4F	TEL.082-578-9011(代)	FAX.082-578-9015
九州支店	〒812-0013	福岡県福岡市博多区博多駅東2-18-30 八重洲博多ビル 7F	TEL.092-433-6811(代)	FAX.092-433-6812
札幌営業所	〒060-0031	北海道札幌市中央区北1条東9-11 北海道歯科医師会館 1F	TEL.011-209-3070(代)	FAX.011-209-3072
仙台営業所	〒980-0811	宮城県仙台市青葉区一番町2-7-17 朝日生命仙台一番町ビル 7F	TEL.022-212-5625(代)	FAX.022-266-1955
茨城営業所	〒310-0021	茨城県水戸市南町3-4-14 明治安田生命水戸南町ビル 13F	TEL.029-302-6801(代)	FAX.029-297-5610
北陸営業所	〒910-0005	福井県福井市大手2-17-1 山川ビル 4F	TEL.0776-21-9521(代)	FAX.0776-21-9579
岡山営業所	〒700-0907	岡山県岡山市北区下石井2-1-18 OGW 岡山下石井ビル 5F	TEL.086-227-0211(代)	FAX.086-227-0216



一次骨折予防のため、顎骨脆弱度評価を支援する

「歯科パノラマX線画像解析AI」



メディア株式会社は、骨粗鬆症や顎骨壊死等に関する医科歯科連携や地域医療連携の推進を支援するサービスを提供しています。

“歯科から始める”医科歯科連携により 人々の「Quality of Life」向上を支援

PanoSCOPEは、歯科医院で撮影された患者さんのパノラマX線画像をAI解析し、顎骨の脆弱度を数値化するソフトウェア。歯科医師が、顎骨の脆弱度に基づいて地域のかかりつけ医や専門医に患者さんを紹介する新しい医科歯科連携・地域医療連携スキームが始まります。



PanoSCOPEの特徴

顎骨脆弱度評価を支援する
「歯科パノラマX線画像解析AI」



FEATURE01 簡単な操作で歯科パノラマX線画像を自動解析



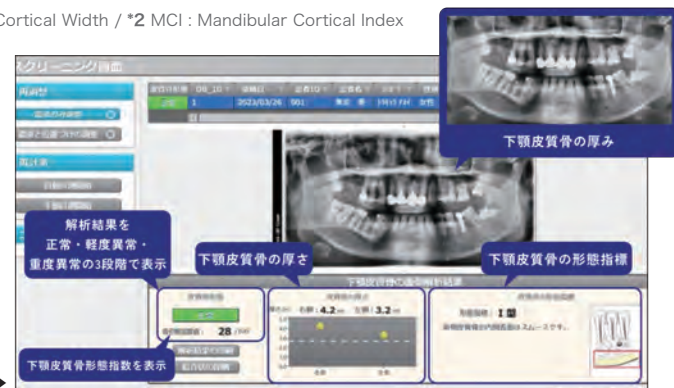
患者さんから同意を得たうえで、撮影した歯科パノラマX線画像を二次活用し、簡単な操作により顎骨脆弱度評価の支援を得ることができます。

◀自動解析に必要な操作は、たったこれだけ！

FEATURE02 AI(人工知能)解析により顎骨脆弱度評価を支援

「パノラマX線画像による骨粗鬆症スクリーニングの臨床ガイドライン」に準じ、左右オトガイ孔下付近の下顎骨下縁皮質骨の厚さ(*1 MCW)の計測と下顎皮質骨形態指標(*2 MCI)分類により、顎骨脆弱度評価を支援します。

*1 MCW: Mandibular Cortical Width / *2 MCI: Mandibular Cortical Index



スクリーニング画面▶

歯科パノラマX線画像に「下顎皮質骨解析処理」を含む画像処理を施し、歯科医師による顎骨脆弱度の評価を行うための参考情報を提示することを目的としており、本プログラムによる検出結果のみで確定診断を行うことを目的としておりません。

FEATURE03 文書作成も簡単に

患者さんへ結果をお伝えするための「解析結果」や、「紹介状」などの文書も簡単に作成。円滑な医科歯科連携にお役立てください。

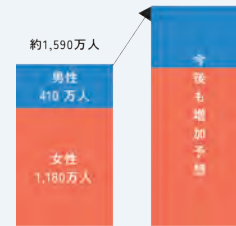


医科歯科連携

骨粗鬆症による骨折と医療・介護費の増大

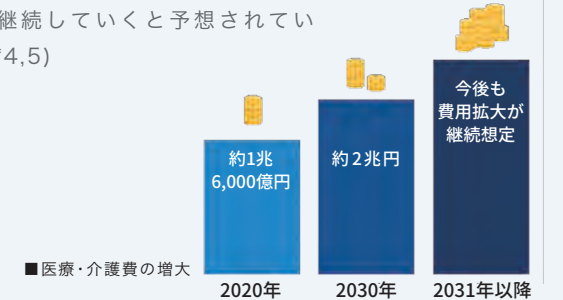
骨粗鬆症患者数は今後も増加傾向

わが国の骨粗鬆症患者数は約1,590万人(*1)(男性410万人・女性1,180万人)にもものぼり、超高齢社会に伴って今後もさらに増加することが予想されています。



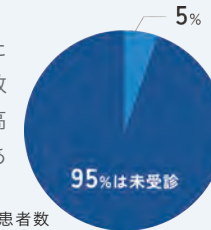
骨粗鬆症に関する医療・介護費の増大

骨粗鬆症による骨折は大腿骨近位部、椎体(腰椎)、橈骨遠位端(手首)に起きることが多く、なかでも大腿骨近位部骨折は骨折1年後の死亡率が10%にも達します。(*2)また、骨粗鬆症の脆弱性骨折により、手術後も社会復帰できずに「寝たきり」介護へと進んでいくケースが後を絶ちません。(*3)骨粗鬆症により、費やされる医療・介護費は年々増加しており、2030年には年間2兆円超にまで増大し、以後も費用拡大が継続していくと予想されています。(*4,5)



骨粗鬆症検診の受診率はわずか5%

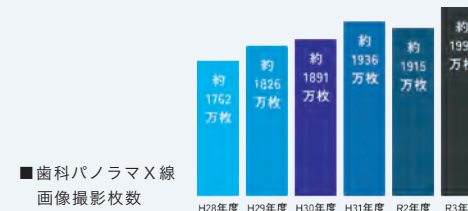
骨粗鬆症は一般に自覚症状が無いため早期発見が難しく、検診受診者数は年間約30万人と、全国平均で中高齢の女性人口のわずか5%程度であるとされています。(*6)



歯科から始める地域医療連携

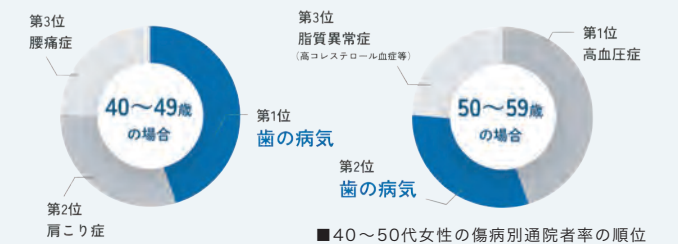
歯科パノラマX線画像は、 年間に総計約2,000万枚撮影

わが国では、歯科医院の90%以上が歯科パノラマX線画像の撮影装置を保有しており、さらに年間総計約2,000万枚撮影されています。(*7)

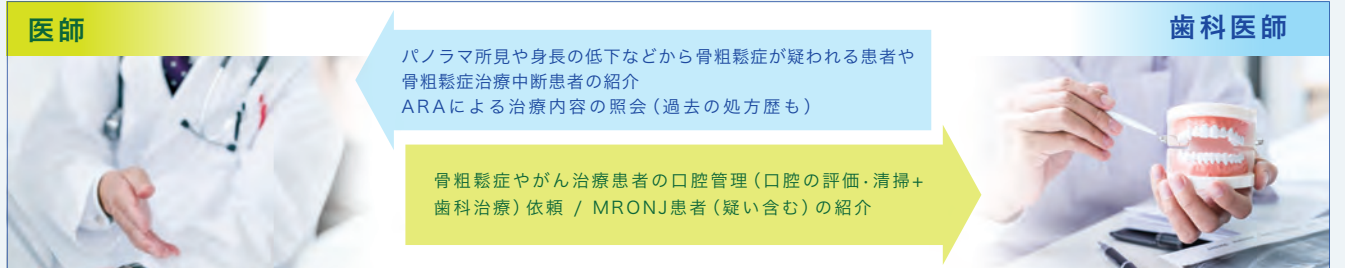


40～50代女性は、歯科通院率が高く、骨粗鬆症の 早期発見や一次骨折予防に大きな関心を持っています

50歳以上の女性の4人に1人は骨粗鬆症(*8)です。骨粗鬆症の早期発見や一次骨折予防に有効となる40～50代女性は、歯科通院率が高いというデータがあります。(*9)



骨粗鬆症患者に対し、安全安心な治療を提供するには医科歯科連携が必須です。



■参考文献*10 ARA:骨吸収抑制薬 / MRONJ:薬剤関連顎骨壊死

原則として骨粗鬆症治療を開始する患者は全例が歯科スクリーニングの対象となります。(*10)

紹介先医療機関の検索はこちら▶

骨と歯の健康連携ポータル
<https://honetoha.jp>

